研究ノート

アクティブラーニングによる総合的な学習と学生の意欲化
－地域理解及び地域体験学習－

西村　眞*1

キーワード：アクティブラーニング　総合的な学習　地域　授業評価　意欲

１．はじめに

アクティブラーニングは大学教育の質の転換を視野に入れた提言であるとともにこれからの時代の学びの転換を図るものとして注目されている。この問題について、中央教育審議会（2012）の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教師と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学習（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」[1] と示されている。このことは教員養成に関わる学部やコース、教職科目にはインパクトをもたらすことである。

もう一つのインパクトは、子どもたちにアクティブラーニングを教室の内外で実践していくこれからの教員を養成・育成するということである。中央教育審議会（2015）の答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では「子供たちに、知識や技能の修得のみならず、これらを活用して子供たちが課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導力を身に付けることが必要である。その際、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った指導・学習環境の設計やICT を活用した指導など、様々な学習を展開する上で必要な指導力を身に付けることが必要である。」[2] と示されている。本答申が示す教師の「指導力」を大学における教員養成で育成するためには授業とカリキュラムのリ・デザインが必要である。したがって、学生がアクティブラーニングに対する知識理解を深める授業や、教室の内外で子どもたちのアクティブラーニングを可能にする実践的なカリキュラムが求められるのである。そこで、担任として必要な教育的能力や経験は自身の専門的知識技能と特別活動や総合的な学習、教科としての道徳等の指導能力が求められる。ここでは、体験学習の豊富な総合的な学習に焦点を当てて、カリキュラムや教育目標、授業の展開の仕方及び授業評価などの観点から学生の学ぶ意欲を探究する。

２．アクティブラーニングの教育方法及び教育目標

アクティブラーニングは主体的で協働的で省察的な「学び」本来の活動を通して、学習者の学びの質を高め、理解の深まりを促し、能力の涵養を実現していくための教育方法の拡張と革新の総称である。例えば中央教育審議会（2012）の答申では「発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等」「教室内外でのグループグスカション、ディベート、グループワーク等」がその方法として紹介されている。ここに取り上げられた方法は一部であり、教師は学習者の教育方法のレパ

*1　至誠館大学　ライフデザイン学部

ートリをもつことと幾多ある学習方法を学習内容や学習課題に応じて選択し、判断できることが重要である。学習者が意欲をもって能動的、主体的、省察的に学ぶためには、教師が学習者の学習意欲を喚起し、高め、継続していくための質の高い「学習目標」を設定する必要がある。その学習目標の例としては以下のような学習課題、問い、主題、問題が挙げられる。[3)]

・学習者の既有知識に基づく学習課題
・学習者にとって「学びの必然性」
・学習者の生活経験と関連する主題・課題
・学習者が小さな専門家となり探究していける主題
・学習者が「解決したい」と思える問題

この能動的な学習は学習目標と学習方法の 3 項の密接な関係により意味を成すものである。さらに授業評価を加えることによりこの学習に省察性を磨くことができる。

３．総合的な学習と授業評価

総合的な学習の課題は、例えば、国際理解、情報、環境、福祉、健康などの現代的な諸課題に対する横断的･総合的な諸課題､地域や学校の特色に応じた課題､生徒の興味関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定されるものである。[4)]

本研究は地域の特色に応じた固有の課題であり、「夏みかん」という萩の特産物を様々に加工して、より良い郷土の創造に寄与したり、貢献したりできる素地を培うための授業を展開する研究活動である。山口県や山口県以外から梅光学院大学（前任校）に学んでいる学生が多く山口県を理解し体験する活動として次のような視点から調査や作り方及び授業展開等を設定した。

◆特産品の歴史及び生活との結びつきについての資料調査
◆夏みかん加工の歴史と様々な加工品を創ることの調査及び作り方
◆アクティブラーニングによる単元構成及び授業展開及び授業評価

これらの視点からこの単元の授業を学生の意欲化に焦点を当てて探究する。

（1）夏みかんの木の植樹及び栽培、販売の歴史

江戸時代に武士たちにより趣味としていたるところで夏みかんの栽培が始まり、やがて明治に入ると萩を代表する特産品として栽培が盛んになり、やがて昭和に入ると夏みかんそのものを加工した商品が開発され、現代に至っている。また、夏みかんそのものの品種改良が進み、今では多様な味をもつ夏みかかんが栽培されている。まず、このことを自分たちでしっかり調査してから授業に臨むようにした。

（2）夏みかんの加工と作り方

夏みかんを加工するにはまずその種類と作り方を十分熟知していることが重要である。したがって、この加工技術を熟知して、しかも教育的な配慮もできる方を地域人材としてまた指導者として授業に参加していただく設定をした。総合的な学習においては様々な分野があるので、その分野に精通している人を地域から人材として活用することも学んでおく必要がある。この単元では次のような加工品を選択して授業づくりに活用した。

夏みかん菓子
夏みかんゼリー
夏みかんマーマレード
夏みかんジュース

これらの加工品を数個の夏みかんから選択して作ることを通して先人の苦労やこれからの自分たちが地域とどのように関わるかを探る契機とすることが求められるのである。専門的な知識や技能は必要ではないがある程度の経験値があると指導者として加工技術をうまく伝えることができ、実際に指導したり支援したりすることができる。萩地域は夏みかんや松茸、大根、キューイフルーツ、竹など特産品が多いので総合的な学習の教材には事欠かない。

４．アクティブラーニングによる単元構成及び授業展開及び授業評価

（1）単元構成

総合的な学習は長期にわたる単元が多く年間のカリキュラムマネジメントが重要であると言われている。この「夏みかん菓子等の授業体験」は夏みかんが栽培され結実する5月か6月ごろが適切で時間数は2コマから4コマを計画してきた。そこでそれぞれの時間にアクティブラーニングを仕組み学生の学びに対する意欲を調査してきた。2014年度、2015年度、2016年度と内容を精査しながら指導を工夫することにより単元をユニバーサルにデザインしてきた。具体的には後述する。

（2）授業展開

1コマ90分の授業にアクティブラーニングの要素を入れてそれぞれの活動で意識的に意欲をもって取り組むことができるよう学生とコミュニケーションをとりながら進めていくことを心がけてきた。具体的には次のような活動である。

・事前に夏みかんの歴史や萩に根付いた歴史を調べることにより夏みかんのドラマを学ぶ。
・グループは5～8人程度で話し合って構成する。
・課題はグループで話し合っていくつかの視点から活動できるよう指示する。
・どのような味に加工するのか予め加工しているものを試食する。
・試食することにより、自分たちのグループがいくつかの加工品の中から、作るものを選択する。
・作り方については予め板書された内容をスマホで写し取り手元において作り始める。
・グループで役割分担して効率よくしかも味付けもよく確かな加工品を創るための活動を演出する。
・できるだけ試食の味に近づくことができるようお互いに試食しながら修正する。
・予定していた加工品ができ上ればグループ全員で試食しながら、苦労したことや工夫したことを話し合いメモを取りながらまとめる。
・スマホやデジカメを活用して途中の活動を切り取り、写真を加工してレポートの内容に盛り込む。
・レポートをまとめる時間を設定してお互いの工夫や良さを取り入れる活動を仕組む。
・レポートの発表の場を設定してグループ内や全体で質疑応答する。

以上のような活動を組み合わせて年次ごとに組み合わせて学びの意欲化を図ってきた。

（3）単元構成と授業展開

2014年度（2コマ）

グループ構成と役割分担
課題づくり
加工品の作り方
調理
レポートづくり・授業評価

2015年度（3コマ）

事前調査
グループ構成と役割分担
加工品の試食
課題づくり
加工品の作り方
調理・試食
レポートづくり・授業評価

2016年度（4コマ）

事前調査・事前の作り方のビデオ視聴
グループ構成と役割分担
加工品の試食
課題づくり
加工品の作り方
調理・試食
レポートづくりと話し合い
レポート発表及び質疑応答・授業評価

2014年度から2015年度までの単元構成とコマ数及び授業展開についてまとめて以下の項目において授業評価を実施してきた。

（4）授業評価と調査方法及び結果の内容

①調査の目的

以下のような授業評価カードを作成して毎時振り返りをして自分の活動を省察できるよう工夫してきた。そこで各項目を5段階で評価した調査結果を年次ごとに比較する。授業評価カードの項目にアクティブラーニングによる学びの意図を盛り込み学生にもきちんと伝える。

②調査の方法

◆2014～2016年度（平成25～27年度）の3年生を対象に実施

全員が教員志望者の学生

◆授業評価カードの実施年度及び対象学年・対象人数及び回答率

2014年度　3年生　26名　26名　100%

2015年度　3年生　53名　53名　100%

2016年度　3年生　62名　62名　100%

◆授業評価カードの様式と各項目の意図

授業評価カード 科目（　　）　名前（　　）

1．自分で課題を設定することができたか　5　4　3　2　1

2．問いを持ち続けることができたか　5　4　3　2　1

3．授業や単元の見通しを持つことができたか　5　4　3　2　1

4．主体的に活動に取り組むことができたか　5　4　3　2　1

5．グループでよくコミュニケーションをとることができたか　5　4　3　2　1

6．学んだことを表現することができたか　5　4　3　2　1

7．学んだことをまとめることができたか　5　4　3　2　1

8．振り返りをして省察することができたか　5　4　3　2　1

9．学んだことを記録して次に生かそうとしたか　5　4　3　2　1

10．省察して次の活動の課題を考えることができたか　5　4　3　2　1

活動やコミュニケーションの内容をまとめる

学んだことを表現し、まとめる

(評価段階)

5：十分できた　　5段階で自己評価して〇印をつける

4.：かなりできた

3：できた

2：できないことがあった

1：まったくできなかった

それぞれの項目は授業の展開に沿って評価項目を設定しておりどの項目においても評価に学生の意欲が関わっているので年度ごとに単元構成や展開を変えることによりアクティブラーニングによる学びを取り入れている。

各評価項目の意図

１：課題づくり

単元の到達目標の設定および向上目標の設定

２：課題づくり

授業の到達目標の設定及び向上目標の設定

３：学習計画の理解

４：主体性

５：対話的な学び

６：表現力

７：深い学び

８：省察的な学び

９：情報収集・分析・整理

10：課題づくり

次時の授業における課題

③授業評価カードの調査結果

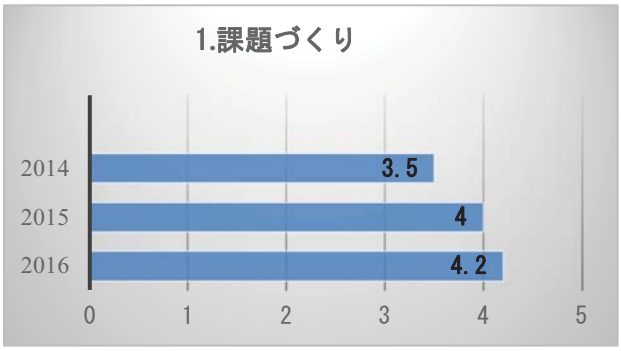

図１　課題づくり（単元）

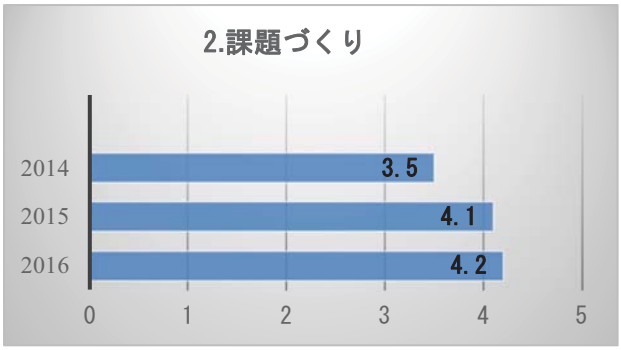

図２　課題づくり（授業）

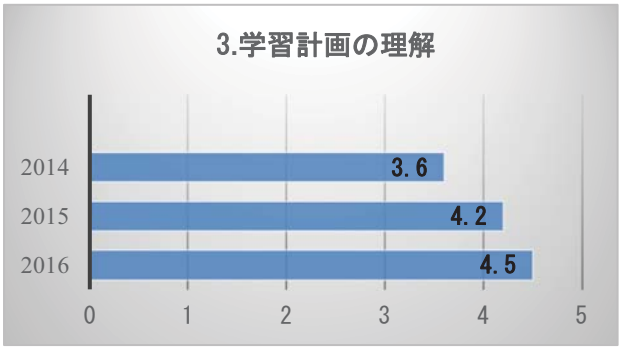

図３　学習計画の理解

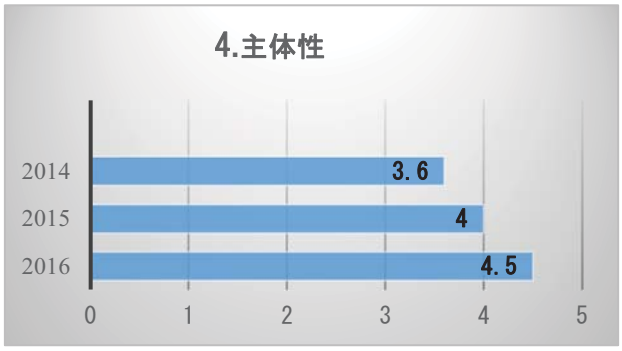

図４　主体性

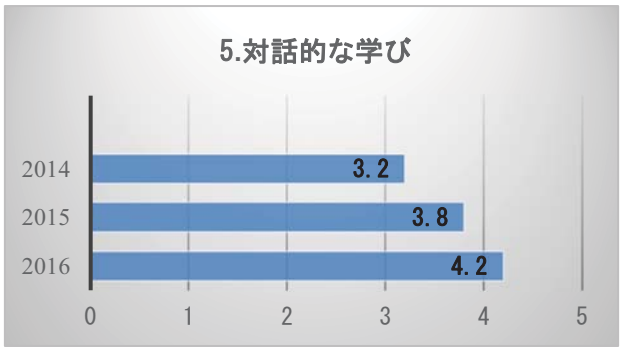

図５　対話的な学び

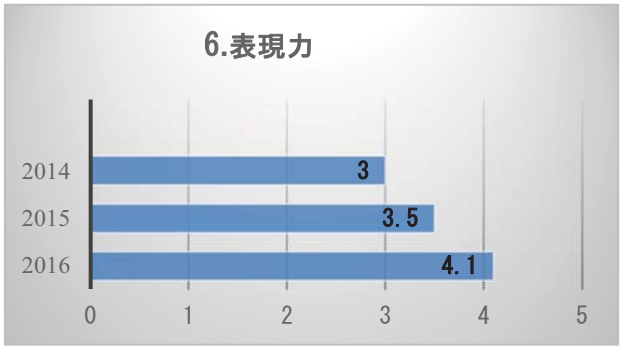

図６　表現力

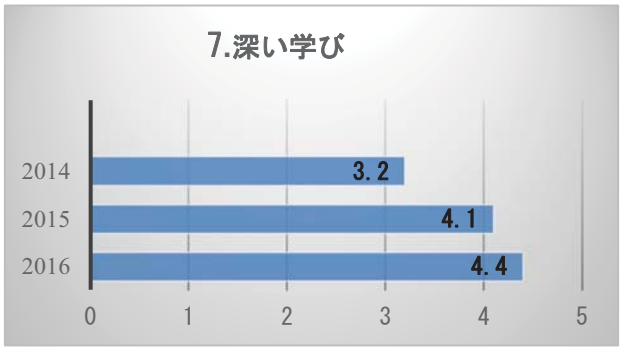

図７　深い学び

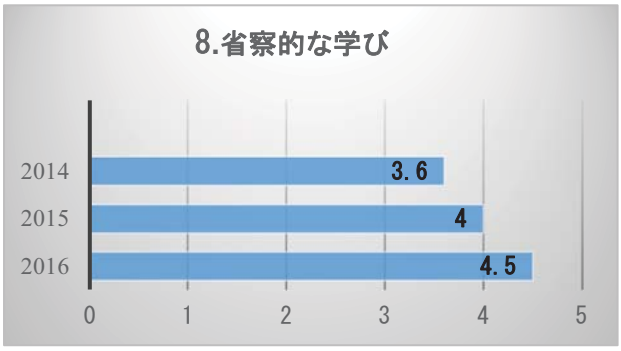

図８　省察的な学び

図９　情報取集・分析・整理

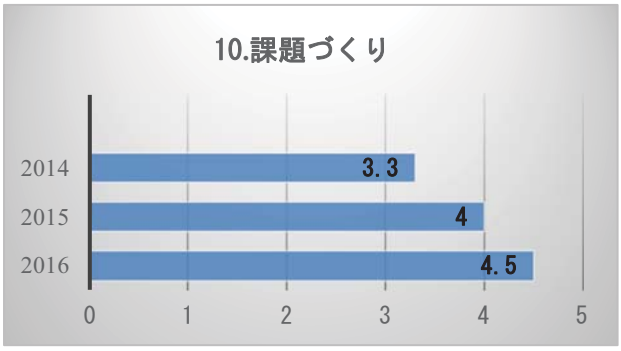

図 10　課題づくり（次時）

５．調査の結果と分析・考察

(1) 各項目別の分析・考察

①課題づくり　到達目標、向上目標の設定

ここでは単元を通しての到達目標や向上目標を設定して見通しを持たせるような目標づくりをする。具体的には以下のように学習カードに地域理解のための目標や地域体験学習の目標がきちんと表現されていると評価できる。

・夏みかんの歴史を学び、夏みかんに関わる加工品を創ることで萩を学ぶ。

・夏みかんの歴史を調べ、萩の歴史を調べることで、夏みかんの加工品を創り、先人の苦労を体験して萩を理解する。

2014 年度は時間数が少なくこの部分に時間を当てることができず、すぐに実習体験に入ったので課題づくりが不十分であった。その反省を生かして 2015 年度、2016 年度は課題づくりに十分時間を設定して萩地域や夏みかんの歴史の教材を豊富にしたため、単元を通した課題や目標を設定できた。

②課題づくり　到達目標、向上目標の設定

課題に即して各授業の目標を学習カードに記入して毎時間、問いをもって臨むようグループにおいて話し合いで決める。時間を設定することで意欲をもって活動できる。毎時間問い続けることが意欲化につながる。

③学習計画の理解

学習カードを活用して学習の目標と内容・活動をコマ数分明確にすることで見通しを持つことができ授業の意欲化を図る。特に 2014 年度は加工品を夏みかん菓子とジュースに限定していたが、2015 年度、2016 年度は夏みかん菓子、ゼリー、マーマレード、ジュースの 4 種類から選択して加工する活動を仕組んでみた。見た目ではわかりにくいので、それぞれ試食用に人数分食することができるよう準備しておくと加工する意欲が喚起された。マーマレードはパンも準備して試食できるようにした。学習計画をゲストティーチャーとも綿密に打ち合わせ指導の考え方においても共通理解しておくことが欠かせない。

図 11　夏みかん加工のゲストティーチャー

④主体性

各自がグループで課題や目標を話し合うことで見通しをもって活動することができ、2016 年度は特によく主体的に活動することができた。加工の方法をスマホに入力して画面を見ながら的確に調理することができた。また、適時、動画・写真に記録することで役割分担が明確になっていた。

図 12　夏みかんプリン選択のグループ

⑤対話的な学び

話し合うだけでなく、作りたい味に近づくためにはどのように工夫すればよいか調理しながら学び合うことができた。2014 年度、2015 年度はこの視点が欠けていて数値が停滞したが 2016 年度は途中で試作品を食する学生がいてかなり上品な味をつく出すことができた。まだ十分ではないが試行錯誤的な活動から試行接近的な活動になっていた。

図 13　よく話し合い協働的な活動の場面

⑥表現力

自分が活動した内容や考えたことを豊かに表現することが十分でないことを自覚させるため、細かく記述させることに留意した。特に夏みかん菓子は作る過程により出来上がり方が違うためその過程を具体的に表現するよう求めた。本来なら煮込む前にみかんの皮の苦みを取り除く処理をしてから煮込むのであるが、指導者の方で前日に処理をしているのでこの部分の記述がないので不十分である。

図 14　上品に仕上がった夏みかん菓子

⑦深い学び

夏みかん菓子は実際には収穫から調理まで 3 日は要するので、それまでの過程をしっかり伝えることで深い学びへと繋げていけるのである。2014 年度、2015 年度はこの過程がうまく伝えられず学びが不十分であったが、2016 年度は前もって動画や写真を撮り説明の中に組み入れることで深い学びへと導くことができた。理解しても納得できない部分に工夫を凝らした。また、マーマレードも調理の前に皮を細かく切る必要性があることをよく説明して調理に入るよう指導した。マーマレードはその味が難しいので試食を繰り返して調理するよう指導した。結果的にはかなり時間を割いたがうまく作ることができたことで調理の方法知を深く学ぶことができた。総合的な学習は方法知も深い学びの一つとなる。

図 15　マーマレードの調理

⑧省察的な学び

自分の活動を振り返り、考えたことや学んだことを毎時間まとめることはとても大切である。なぜうまくいったのか、なぜうまくいかなかったのかをまとめることは次の活動にしっかり活かすことができる。特にグループでの話し合いの内容を振り返ることや加工品の仕上げ段階での活動を詳しくまとめていた。この場合小さなポストイットカードを活用して活動ごとに書き入れて学習カードに貼っていく活動を取り入れたことが効果的であった。

⑨情報の収集・分析・整理

省察的な学びを次の活動に生かすためには必要な活動である。ポストイットに書いた様々な活動の記録を活動ごとに整理することで、活動したことや考えたことなどを学習カードにまとめていくことで自分が何を学んだのか明確にできる。具体的には以下のようである。

・一つの夏みかんを余すところなく使い切る加工がおもしろいし、ユニークである。

・味がなかなか試食用のように定まらないことにとても腐心したが、結果的には近づくことができた。

⑩課題づくり

単元計画に基づき学習カードに次の時間の課題や目標を書き入れることで次時の活動への意欲化を図ることができる。活動をまとめ、次の時間レポートの発表時には発表の仕方やプレゼンのまとめ方など詳細に記述することができた。具体的には以下のようである。

・プレゼンでは写真や動画を入れてわかりやすく提示することとし、提示の仕方も工夫する。

・一つ一つの加工品を写真で提示して、上品な味を追求したことを伝える。

・グループでの話し合いの内容を分かりやすくプレゼンで伝える。

・特に苦労したところを中心に詳細にまとめてわかりやすく図や写真を駆使して伝えたい。

図 16　試食しながらの振り返り

5．まとめ

アクティブラーニングの考え方を取り入れて総合的な学習の内容知と方法知を見直すことで能動的な学習を展開することができてきた。3 年にわたる同様の授業で自己評価を視点として改善や創意工夫を重ねてきた研究のまとめと今後の課題を探る。

・総合的な学習は特にカリキュラムマネジメントが必要で、何時間で扱うかということとどのような教材や素材を取り入れるかが問われている

・地域の食に関わる教材はどの地域にも存在するので、考え方をそのまま応用したり創意工夫したりすることができる。

・学生の授業評価から意欲化を探ることにより授業展開に創意工夫してきたが、今回はコマ数を増やしながら実践してきた。今後は同様の時間数で意欲化を図ることができるよう探っていきたい。

・地域の歴史や素材の歴史を調べてまとめることで課題づくりがよくできて、しかも加工品への調理意欲が増し、先人の苦労に思いを馳せることができた。単元

構成の学習カード及び毎時間の学習カードと授業評価カードは記録しながら学ぶことで意欲化を図ることができた。

・活動の途中での気づきや考えはポストイットカードに書き込みながら進めることができ、必要なポイントで写真を撮りレポート作成の資料として活用できたことで意欲化を図ることができた。

・レポートは提出するだけでなく、各自が学んだことをグループで発表し合い、全体でも発表する機会を設定したことでプレゼン作成において協力しながら学びを深めることができた。

・課題としては学生の意欲化を図るために、福祉、情報，国際理解、環境などの分野においても確かなカリキュラムマネジメントをして対話的で深い学びができるよう活動を設定していきたい。特にこの講座の受講者は近い将来ほとんどが教師となるため、地域体験や地域理解に関する授業を展開する機会には生きて働く活動となることが予想される。そこで、他の分野においてもアクティブラーニングによる大学での体験的な学びの充実が望まれる。

引用文献

1）文部科学省（2012）「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」，9-11
hpps://www.next.go.jp/component/b-menu/shingi/tous-hin/-icsFils/afieldfile/2012/10/14/1325048-1.pdf
（アクセス日　2020.9.15）

2）文部科学省（2015）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」，16-17
hpps://www.next.go.jp/component/b-menu/shingi/tous-hin/-icsFils/afieldfile/2016/01/13/1365896-1.pdf
（アクセス日　2020.9.15）

3）日本教育方法学会（2016）『アクティブラーニングの教育方法学的検討』図書文化社，130-132

4）文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間』東山書房，28

参考文献

1）文部科学省（2018）『中学校学習指導要領　解説　総則編』東山書房

2）稲井達也（2019）『高等学校「探究的な学習」実践カリキュラム・マネジメントー導入のための実践事例23－』学事出版

3）田中耕治他（2019）『新しい時代の教育課程』 有斐閣

4）夏みかんセンター（2011）『夏みかん物語　Hagi』
hpps://www.city.hagi.lg..jp/uploud/attachment/331.pdf
(アクセス日　2016.5.16)

5）溝上慎一（2015）「アクティブラーニングの基礎的理解」『指導と評価』730,135

6）柳沢昌一・三輪健二 監訳（2007）『省察的実践とは何か：プロフェショナルの行為と思考』鳳書房